

はるかな尾瀬

—目次—

- 02 リレーエッセイ～尾瀬賞受賞研究～
「フェンとボッグの分布」
- 04 認定ガイドがススめる とっておきの尾瀬
①奥只見郷ネイチャーガイド
②尾瀬檜枝岐案内人の会
- 05 連載「尾瀬から学ぶスローライフ」
- 07 尾瀬ボランティア情報
- 08 TOPICS
- 10 尾瀬保護財団からのお知らせ



2016.3 vol.29
(公財) 尾瀬保護財団



「尾瀬のアイドル」(第19回NHK「わたしの尾瀬」フォトコンテスト入選作品) 撮影：吉田功さん
撮影日：平成26年9月12日

リレーエッセイ

フェンとボグの分布

中村 隆俊

国際的な基準によると、冷温帯に分布する湿原景観は、ヨシや大型のスグが優占する「Fen」・「フェン」と呼ばれるタイプと、ミズゴケが地表を覆い小型の植物が生育する「Bog」・「ボグ」と呼ばれるタイプに大別される。この湿原区分は純粋に植生の違いのみから判別されるのに対し、日本国内でよく耳にする高層湿原・低層湿原という湿原区分は、植生や泥炭土壌の発達様式、地下水位などの複合的な情報から判別される。厳密な判別基準はこのように国内外で異なるもの、および、ボグは高層湿原、フェンは低層湿原に相当する。

この2つの湿原タイプは、湿原生態系における最も基本的で重要な植生区分であると考えられており、両者の分布環境の違いは古くから議論の中心的話題となっている。一般に、フェンに生育するヨシ等は生産量が多く、ボグでは生産量に乏しい植物しか生育しないため、一見するとボグは貧栄養環境を反映した植生

景観であり、フェンは富栄養環境を反映しているようにみえる。しかし、実際の土壌や水質の成分がそうした傾向を示すことは意外なほど少ない。むしろ、両湿原タイプの養分環境の違いは非常に曖昧であることが様々な研究アプローチによって判明している。

では、両湿原タイプの分布環境の違いを明瞭に表現できる環境要因は何なのか？ その疑問に対して、欧米を中心に多くの研究がなされてきた。そうした取り組みによる知見の蓄積から、特に欧米の湿原に関しては、土壌水のpHや塩基性イオン濃度の違いと湿原タイプが密接に関連することがわかってきた。フェンでは土壌水が弱酸性〜アルカリ性（pHが高い）を示し、ボグでは強酸性（pHが低い）を示す報告が大変多い。そして、そうした土壌水pHの違いが生まれる背景には、大陸の基盤地質が石灰岩であることが大いに関与している。石灰岩にはカルシウムやマグネシウム等の塩基性成分が豊富に含まれるため、土壌水と石灰岩の接触程度によって塩基性イオン濃度に大きな差が生じ、結果としてpHの違いがもたらされる。例えば、長い年月をかけて地中の石灰岩地帯を流れてきた地下水が湧水として湿原を潤すような場合、その土壌水は多量のカルシウムイオンを含むため高いpHを示す。これらのことから、フェンとボグの分布を特徴づける本質的な環境要因はカルシ

ウムやマグネシウム等の塩基性成分であるという考え方が一般的となり、それらのイオン濃度が低い立地でボグ、濃度が高い立地でフェンが発達する、という認識が広く浸透した。

ところが、主に火山性の母材が基盤地質となる日本では、欧州のような塩基性物質に富む土壌はほとんどみられない。にもかかわらず、日本でもフェンとボグが普通に分布している。このことは、両湿原タイプの分布にカルシウムやマグネシウムが強く関与するという一般認識の再検証が必要であることを意味している。そこで筆者らは、北日本における様々な湿原で合計270地点以上の植生・環境調査を行い、改めてフェンとボグの分布特性

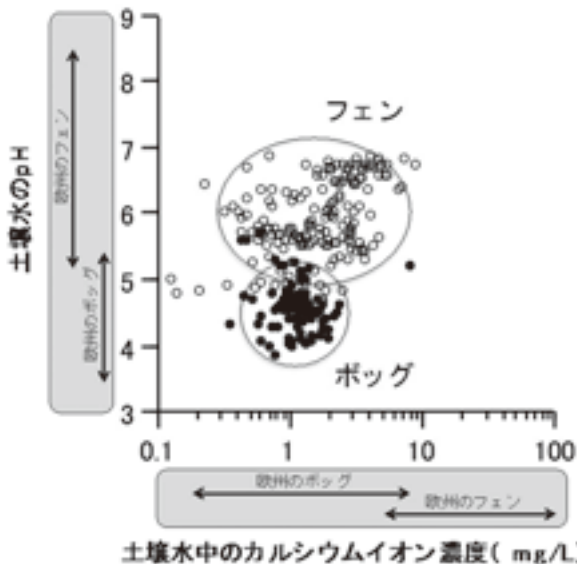
▼ ミズゴケが地表を覆うボグ





▲ヨシや大型のスゲが優占するフェン

について欧米での傾向も交えながら再構築を試みた。すると判明したのは、両湿原タイプ
の分布特性は土壌水の塩基性イオン濃度より
もpHのほうが適切に表現可能である、という
結論であった。北日本の湿原におけるカルシ
ウムイオンやマグネシウムイオンの濃度レン
ジは、フェンとボグでほとんど重複しており、
その最高濃度は欧米の湿原の1/10程度でし
かなかつた(図参照)。それに対し、土壌水の
pHは明瞭にフェンとボグの分布を特徴づけ
ており、pHが5〜6付近を境界としてそれよ
り低い立地にボグ、それよりも高い立地に
フェンが分布した。そして、このpHに関する
傾向については、イギリスやスカンジナビア
半島で行われた大規模調査の結果ともほとん



▲日本におけるフェン(白丸)とボグ(黒丸)の分布特性
(中村ら(2002))

ど一致した。これらのことから、少なくとも北
半球の冷温帯においては、pH5〜6を境界と
して両湿原タイプの分布を峻別できることが
明らかとなった。pHは塩基性成分だけでなく
酸性成分によっても変化する。従って、以上
の結果を踏まえると、フェンとボグの分布・
発達に強く関与する本質的な環境要因は、塩
基性成分ではなく、酸性成分であるという仮
説が浮上した。
筆者はこの仮説について生理学的な検証を
進めている。その取り組みのなかで、強酸性
環境のボグでは、窒素が多く存在している
も植物がそれをうまく利用できないことが明

らかとなった。そして、窒素のなかでも有機
体窒素の有効利用がボグへの分布には不可
欠であることが示された。これらの知見は、
酸性環境による植物の窒素吸収阻害と深く関
係しており、上述の仮説を強力に支持するも
のとなった。このあたりの研究経緯に関する
詳細は今回割愛させていただくが、いつかま
た別の機会にでもお話ししたい。

◆◆ 筆者紹介 ◆◆

中村 隆俊 (なかむら たかとし)

- ・ 東京農業大学生物産業学部生物生産学科准教授
- ・ 専門は生態生理学
- ・ 著書は「自然再生…生態工学的アプローチ(共著)」「
森林の科学―森林生態系科学入門―(共著)」など
- ・ 「湿原植物の分布機構解明へむけた生態生理学的
アプローチ」で第17回尾瀬賞を受賞

尾瀬賞とは…

尾瀬をはじめとした湿原は、人類をはじめ多くの
生物にとって貴重な自然です。それにもかかわらず、
年々人為的な影響により湿原は減少し、また、利用
者の増加により植生破壊等が懸念されています。尾
瀬保護財団では、尾瀬に限らずより広く湿原を保護
するために、基礎研究に基づいた議論展開が必要で
あると考え、湿原を対象とした学術的・学際的研究
を奨励し、併せて環境保護に関する関心を高めるた
めに平成9年度から顕彰事業「尾瀬賞」を実施して
います。

その31 お客さんと同じ目線にたつてガイドする 〈桜井昭吉 (尾瀬自然ガイド)〉

(奥只見郷ネイチャーガイド Tel 025-792-7300 URL http://www.iine-uonuma.jp/play/nature/oze/nature_guide.html)

A1 尾瀬は湿原や池塘の素晴らしい自然でどなたも知るところです。一方で尾瀬の湿原周辺や燧ヶ岳、至仏山その他の山域には立派な森林が分布していることに注目しましょう。

A2 先に紹介した原生林の分布はそれぞれの場所です。一律ではなく、地形や日照条件の違いなどによって森それぞれの特徴があります。ブナの原生林は燧裏林道の裏燧橋からうさぎ田代までと、段吉新道。このルートでクロベの巨木もあって登山者が少なく楽しめます。針葉樹の森は尾瀬沼北岸ルートのオゼトウヒ、三平峠のオオシラビソの原生林や大江湿原から小沢沢田代に行く登山道などが見どころです。

A3 尾瀬で必要な雨具や帽子、地形図、ゴミ袋などは必携ですが、尾瀬をより楽しむ方法として、あれば便利な物はたくさん



あります。例えば野鳥の好きな人は双眼鏡ですが7〜10倍で、携帯に便利な対物レンズの口径が20〜30mmくらいが良いと思います。もちろん携帯用の図鑑は山野の鳥(日本野鳥の会)でしょう。植物の好きな方も植物図鑑で花が楽しめます。

A4 昨年の9月21日に尾瀬沼から見晴に向かつてガイドの途中に、沼尻休憩所の火災にありました。私達が通った頃は下火になっていましたが、福島県の消防ヘリが尾瀬沼の水を吸い上げて空中から消火していました。幸い池塘を通る迂回の木道で無事に通過できましたが、トイレが使用できず一行が見晴に宿泊する山小屋に着いて小屋のトイレに駆け込む人が6・7人おりました。沼尻休憩所の必要性を痛感しました。

A5 最初に尾瀬を訪れたとき、尾瀬の美しい自然と神秘的とも言える感動をおぼえたことを思い出します。はじめて尾瀬に来るお客さんも同じに感じているでしょう。私達ガイドの仕事は尾瀬を訪れるお客に対して、単に知識の伝達や自然保護を言葉で伝えることだけではなく、お客さんの求める尾瀬を会話の中から読み取ることで、お客さんと同じ目線にたつてガイドすることを心掛けています。

その32 景色が変わっていく様に生命を感じる 〈平野公樹 (尾瀬登山ガイド)〉

(尾瀬檜枝岐案内人の会 Tel 0241-75-2432 URL <http://www.oze-info.jp>)

A1 余裕ある行程を組んで出発しましょう。尾瀬ヶ原や尾瀬沼はピークハントが目的ではありません。きれいな花や景色などをゆっくりと歩いて楽しみましょう。燧ヶ岳や至仏山は早発ちが基本です。山小屋に宿泊するなどして無理のない登山をしましょう。時間に余裕があるといういろいろなものがよく見えますし、ケガの防止にもつながります。時間が余ったら麓で温泉や食事を楽しみましょう。そして、もっと楽しみたいという方はガイドを頼みましょう。

A2 尾瀬沼の沼尻湿原の池塘から、沼尻休憩所を入れた尾瀬沼の景色が好きです。昨年消失してしまいましたがああ感じの小屋が自然に溶け込んでいた景色がいいです。再建されることを願います。それから、春の会津駒ヶ岳、ゴールデンウィーク頃から夏にかけての残雪の形や木々の緑など景色が変わっていく様に生命を感じることもできます。ゆっくりしたい方は駒の小屋泊がおすすめ。そして、



A3 ①地図(できれば昭文社あたりのもの) ②救急セット(簡単なものでかまいません) ③おいしいおべんとう(山で食べると特においしいです) ④温かい飲み物(テルモスにお湯でも可) ⑤余裕ある行程時間(一番大事です) ⑥余裕 ⑦余裕 ⑧余裕 ⑨余裕 ⑩余裕 ⑪余裕 ⑫余裕 ⑬余裕 ⑭余裕 ⑮余裕 ⑯余裕 ⑰余裕 ⑱余裕 ⑲余裕 ⑳余裕 ㉑余裕 ㉒余裕 ㉓余裕 ㉔余裕 ㉕余裕 ㉖余裕 ㉗余裕 ㉘余裕 ㉙余裕 ㉚余裕 ㉛余裕 ㉜余裕 ㉝余裕 ㉞余裕 ㉟余裕 ㊱余裕 ㊲余裕 ㊳余裕 ㊴余裕 ㊵余裕 ㊶余裕 ㊷余裕 ㊸余裕 ㊹余裕 ㊺余裕 ㊻余裕 ㊼余裕 ㊽余裕 ㊾余裕 ㊿余裕

A4 思い出のエピソードではありませんが、近年高齢の方をガイドすることが増えてきました。尾瀬エリアをはじめ津駒ヶ岳などにもガイドすることがあります。はじめは80いくつです、などと聞くと大丈夫かな?と思います。ほとんどの方がトレーニングをして体調万全で、行程にも余裕を持って来られます。いろいろな知識も豊富で逆にこちらが学ばせていただくことも多いです。ガイドというのは、学びながらお金をいただけるありがたい仕事なんです。

A5 今後の抱負などは特にありませんが、日頃より安全で楽しく歩いているだけにガイドをしています。自然がフィールドなので天候が良い日も悪い日もあります。よくなかった時にも笑顔で楽しかったと言っていたら、と喜びや自信になります。多少のトラブルはつきものです。楽しく尾瀬を歩きましょう。

ガイドさんへの質問

Q1 尾瀬の楽しみ方 Q2 オススメの尾瀬スポット Q3 尾瀬歩きに便利な道具・装備
Q4 思い出のエピソード Q5 今後の抱負・目標

□連載

尾瀬から学ぶスローライフ 「尾瀬に関わり45年」

文・写真提供＝笹原宗利（元・東京パワーテクノロジー(株)職員、前・山の鼻ビジターセンター所長）

（あらすじ）

第1話では、筆者の初めての尾瀬の記憶から、就職して本格的に尾瀬との関わりがスタートした頃のこと、当時の山小屋の繁忙期営業応援の様子や尾瀬ヶ原の木道について、振り返っていただきました。第2話では、当時の尾瀬の交通問題や登山者のマナーなどを現在までの変遷を追って、現場で感じたことを中心に語っていただきます。



▲脇にロープが張られた木道

●第2話 「当時の尾瀬ヶ原の自然保護と登山者のマナー」

昭和45年、入社当時の尾瀬ヶ原は木道沿いにロープが張られていました。私は、景観が悪く、なぜだろうと不思議に思ったものです。先輩に聞きますと湿原に入る登山者がいるので立入禁止のためと言います。なるほど湿原を見ると所々踏み込みの形跡がありました。（現在も尾瀬ヶ原に時々パイプが見えるのはその名残です）

当時は踏みつけによる湿原の荒廃についての意識は薄かったのでしょうか。特にカメラで撮影する方は好きなアングルを求め湿原に入ったり、団体の中には木道を外れて写真を撮っている人が見られました。

そのことから、私たち職員は春先、尾瀬ヶ原やアヤマ平等の木道沿いに雪どけとともに、立入禁止ロープを張りに、また晩秋の寒い時期にロープの撤去に

行きました。

次にゴミ対策ですが、当時の尾瀬ヶ原には現在のように休憩ベンチが広くなく、また数も多くありませんでした。要所々の分岐に小さな休憩ベンチがあり、そこにゴミ箱が数個ずつ置かれていました。また山小屋がある地区には多くのゴミ箱が置かれていて、登山者のゴミはそこに捨てられていました。

尾瀬ヶ原以外にも林内の登山道脇の笹藪の中にゴミ袋や空き瓶・空き缶があったり、公衆トイレの片隅に放置してあったりしました。私たちは山小屋の営業応援時の行き帰りには、ゴミ拾いとゴミ箱の片付け等大変な思いをしました。

それが当時の尾瀬の状況でした。登山者のマナー云々というより世間でも尾瀬でも、ゴミは捨てない、まして持ち帰るといふ人々の意識は薄かったように思います。尾瀬の管理方法もゴミが出るから片付ける・湿原に入るから立入禁止ロープを張る、

そんな状況だったのかもしれない。

昭和50年代半ば〜後半にかけて、尾瀬からゴミ箱はすべて撤去され、「ゴミ持ち帰り運動」により徐々に尾瀬のゴミは減少しましたが、休憩ベンチ付近ではたばこの吸い殻や小さいゴミは目立ちました。

しかしその頃より、世の中も「自然の大切さ・環境保護」等の意識の高まりもあり、湿原への踏み込み者は減少し、木道沿いの立入禁止ロープや看板も徐々に撤去しました。

次に当時の混雑時の交通対策ですが、昭和50年代後半〜鳩待峠へのマイカー等の乗り入れ規



▲昔の尾瀬ロッジ

□連載

尾瀬から学ぶスローライフ 「尾瀬に関わり45年」

文・写真提供＝笹原宗利（元・東京パワーテクノロジー(株)職員、前・山の鼻ビジターセンター所長）



▲路上駐車であふれる鳩待峠

制が始まりました。最初は短い日数の交通規制で、規制日以外の週末を中心とした鳩待峠の駐車場は狭くすぐに満車となり、長蛇の路上駐車で乗り合いのバス・タクシー等のすれ違いがでさず渋滞となりました。私はその頃尾瀬の山小屋勤務をしていたので、休み明け朝早く山荘に行きたくても、渋滞にはまり大変な思いをしました。現在は尾瀬のシーズンを通じて長期の交通規制となり、交通での混乱は少なくなりました。

平成9～10年には登山口の鳩

待山荘勤務で、その頃の尾瀬の入山者は60万人強でミズバショウ期等の混雑期は尾瀬ヶ原から鳩待峠まで登山者で繋がりました。また夕方には下山のためバス・タクシー待ちの登山者で鳩待峠は人混みで埋め尽くされ、夜9時頃まで乗り合いのバス等がピストン輸送していたのが思い出されます。

その後は経済が悪化したり、全国に多くの行楽地（デイズニールランド等）ができて入山者も減少傾向となりました。また尾瀬保護財団も設立され行政や土地所有者・尾瀬関係者等の人たちによる、自然環境保護や利用に当たって様々な取り組みや活動により、現在に至りゴミもほとんど無い、湿原への踏み込みも極少なくなり、尾瀬入山者のマナーがよくなりました。

尾瀬の45年間には様々な変化や、いろいろな出来事がありました。一番記憶に残るのが、集中豪雨（平成23年）による尾瀬ヶ原の木道流失等甚大な被害を出した自然の猛威です。私は過

去に経験したことのない大雨でした。尾瀬ヶ原一帯は湖状態となり、川の泥水が入った池塘の濁りは晩秋になっても消えない等、甚大な自然災害となりました。



▲湖のようになった尾瀬ヶ原

尾瀬での勤務は山の鼻ビジターセンターが最後でしたが、多くの方と関わり支えられ約半世紀にわたり過ごせたことに感謝し、これからも尾瀬ボランティア等で関わって行きたいと思えます。ありがとうございました。（終わり）



◀後列左が筆者



尾瀬ボランティア情報

このコーナーは尾瀬ボランティアに登録されている方のためのページです。

●尾瀬ボランティア総会を開催しました

1月23日(土)高崎市内の高崎市労使会館で第19回尾瀬ボランティア総会を開催しました。参加者は、尾瀬ボランティア47名と財団職員9名のほか、オブザーバーとして環境省と群馬県の職員も参加し、講師を含めて総勢61名の参加となりました。

【ロープワーク講習】

「現地の活動で実践的に役立ち、ボランティア同士が特技や知識をわかちあえるような講習にしたい」という趣旨でNo.1322の上



野孝一さん(写真右)に講師役をお願いして実現したこの講習。班ごとにわいわいがやがや、「こういふ機会はなかなかないのでおもしろかった」と、ロープの結び方を楽しく習得しました。講習に使ったロープは持ち帰っていただきましたが、みなさん、自宅で練習続けていますか？

【講演】

群馬県警察沼田警察署の谷川岳警備隊副隊長の新井孝之さん(写真中央の右)を講師に迎えて谷川岳警備隊の活動、遭難事故と救助活動の事例などについてスライドを使ってお話いただきました。また装備品の実物展示も行い、休憩時間には、みなさんからの質問に気軽に応じていただきました。



「実体験の話は今後の活動の役に立った」との感想が多数寄せられました。谷川岳警備隊が尾瀬で救急や入山者啓発を行っていることを知り、驚きや心強さを感じたボランティアもいたようです。

【平成28年度活動計画等の検討】

班別での意見交換を通じて平成28年度活動計画等の検討を行いました。時間不足のため、各班からの報告は省略し、全体共有を「尾瀬ボランティア活動での入山口啓発活動の重要性を再確認し、財団事務局から環境省をはじめとする尾瀬関係者へ入山口啓発の協働を呼びかけていくこと」としてまとめました。あつという間の4時間でした。詳細は、同封の資料「第19回(平成27年度)尾瀬ボランティア総会のまとめ」を御覧ください。

●平成27年度「活動報告」および平成28年度「活動計画」の作成について

平成27年度の活動報告と、平成28年度の活動計画は同封した資料にまとめましたので御覧ください。

今後、尾瀬ボランティア専用ページ(財団ウェブサイト)で活動者の募集を行います。みなさんの参加申込みをお待ちしています。



尾瀬ボランティア総会に参加したボランティア全員の記念撮影

○尾瀬保護財団設立20周年記念事業を実施しました

去る12月19日(土)に、日本消防会館ニッショーホールにおいて、「尾瀬保護財団設立20周年記念シンポジウム」を開催いたしました。1995年の設立から20周年を迎え、これを記念して尾瀬の将来と財団の今後のあり方を展望するとともに、尾瀬の多様な魅力を広くPRしてファンを増やし、尾瀬への応援の輪を広げようとして企画したものです。

前半の式典では、大澤理事長の挨拶に続き、環境省の亀澤大臣官房審議官から「尾瀬における利用の分散や快適な利用の促進に大きな役割を果たしていただいて」というのご祝辞をいただきました。

続く特別表彰では、尾瀬の保護や適正利用の推進に対して多大な貢献のあった方々に表彰状、感謝状が贈られました。表彰状は、樫村利道氏、須藤志成幸氏、阪口豊氏、松浦和男氏、角田勇氏、奥只見郷ネイチャーガイドが、感謝状は尾瀬ボランティアが受賞

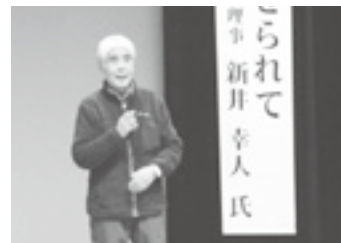


し、受賞者を代表して樫村氏からスピーチをいただきました。荒廃した植生の復元という前例のない事業で大変なご苦労をされたエピソードが披露されました。

財団の理事でもある写真家の新井幸人氏によるスライドレクチャーでは、マルチコプターからの映像によりこれまでに見たことのない角度からの尾瀬の魅力たっぷりに紹介され、参加者を惹きつけました。

続く基調講演では、テレビや雑誌でも人気のネイチャーガイド・橋谷晃氏から、地球規模で見た尾瀬の魅力や季節ごとの見どころを語っていただくとともに、シカや外来植物について問題提起もあり、終始にこやかに話しいただきました。

パネルディスカッションでは、尾瀬で最大の土地所有者である東京電力がかつて尾瀬保護に携わっていた竹内純子氏をコーディネーターにお迎えし、尾瀬の保護の歴史を振り返るとともに、現在の課題をパネリストから掘り下げていただきました。特定の入山口への集中とその解決策、市民目線のシカ対策、口コミやマスメディアによる情報発信、関係者同士の連携、情報の多言語



化などについて、神谷有二氏、桑原幸子氏、関根進氏、松浦和男氏、芳見弘一氏の5人のパネリストに語ってもらい、今後の尾瀬のあり方を考えるヒントをたくさんいただきました。シカ問題や入山料関係などフロアからいただいた質問や意見も取り上げ、ディスカッションを深めてもらいました。

会場のロビーには寄付や募金を呼びかけるブースを設け、財団の貴重な財源であることをご理解いただき、多くの方々から多額の善意をいただきました。募金していただいた方に進呈した財団オリジナル限定バッジも大変好評で、みなさまの尾瀬に対する応援の気持ち伝わってきました。ロビーではこのほか、福島県、群馬県、新潟県における子ども達への環境学習の取り組みや財団の活動をパネル展示により紹介しました。

12月11日からはじまった第20回NHK「わたしの尾瀬」写真展をいち早くこの会場でも開催し、多くの方々で賑わいました。



○ぐんまの自然の「いま」を伝える報告会に参加しました

1月16日、群馬県立自然史博物館の企画展示室は、たくさんの方の発表者、展示物で埋め尽くされていました。驚いたのは高校生の研究発表が多く見られたことです。私は昨年まで長野県におりましたが、大人と混ざっての研究発表の場に高校生がこれほど多くは参加していませんでした。故郷群馬の学校での理系研究活動が活発であることに、まず喜びを感じました。当財団は、尾瀬沼ビジターセンターで行った企画展示

「Ethnic Plants of Ozeー多民族な植物たちー」をコンパクトにまとめたものを発表しました。地球の歴史をふまえた植物の分布背景の紹介でしたので、少々難しかったかも知れませんが、興味深く話を聞いてくれる若者もいました。来年は独自の研究成果を発表したいものです。

(蛭間)



○第20回NHK「わたしの尾瀬」写真展（高崎・前橋・大阪展）が開催されました。

平成27年12月～28年1月にかけて、第20回NHK「わたしの尾瀬」巡回写真展の高崎展・前橋展が開催されました。今回のフォトコンテストには全国から814点の応募があり、会場にはその中から選ばれた51点の力作のほか、過去の風景の部金賞作品や審査員の作品、尾瀬保護財団の活動紹介パネル等が展示されました。会場



ではたくさんの方が美しく切り取られた尾瀬の風景に見入っていました。高崎展期間中の12月13日（日）には、会場にて表彰式と交流会が行われ、入選者の方々が多数参加されました。交流会では入選者のみなさんが自作

を解説し、お互いの傑作を称えあいました。同日には、第20回を記念し、登山家の田部井淳子氏、写真家の新井幸人氏を招いて「尾瀬フォーラム」が開催されました。「遙かなる尾瀬の魅力とその楽しみ方」をテーマに、尾瀬



の思い出や魅力について語っていただきました。途中、ビジターセンターに駐在していた職員がステージに登場し、今シーズンの尾瀬についてミニレクチャーを行いました。

また、2月末～3月にかけては5年ぶりとなる大阪展がNHK大阪放送局を会場に開催され、関西の尾瀬ファンがたくさん来場しました。期間中の週末には群馬・福島・新潟3県の観光



キャンペーンやスライドを使った尾瀬の自然紹介も行われたほか、人気のゆるキャラ「ぐんまちゃん」（群馬県）、「ぎびたん」（福島県）が登場するなど、子どもたちも大喜びでした。今後の巡回予定については、決定次第、NHK前橋放送局ホームページにご案内します。

事務局からのお知らせ

3/28より、群馬県庁17階から15階に事務局が移転します。電話番号、FAX、メールアドレスに変更はありません。



寄付のお願い

尾瀬保護財団では広く寄付をお願いしております。

当財団は、尾瀬国立公園において、利用者に対し自然への理解を深めるための解説活動や、適正な利用に関する普及啓発を実施するとともに、各種の環境保全対策や施設の管理運営等を行ない、尾瀬の優れた自然環境の保全に寄与する活動を続けております。

■個人住民税の寄付金控除の対象に尾瀬保護財団が指定されました。

個人住民税の寄付金税制の拡充により、各都道府県・市区町村が条例で指定した法人に対する寄付が、住民税の控除対象となるようになりました。尾瀬保護財団は下記の県・市・町から指定を受けています。(財団への寄付を行った翌年1月1日にこれらの県・市・町にお住まいの個人が対象となります。)

福島県、群馬県にお住まいの寄付者：個人県民税

福島県富岡町、群馬県前橋市、群馬県高崎市、群馬県桐生市にお住まいの方：個人県民税と個人市民税・町民税

■また、尾瀬保護財団は「特定公益増進法人」に指定されており、当財団への寄付は所得税・法人税の優遇措置を受けることができます。

※なお、所得税、住民税控除の対象となる方には、領収書の送付時にご案内資料等をお送りしております。

■企業・団体の皆様とより良いパートナーシップを築けるよう、特別協賛寄付、協賛寄付の制度があります。詳細は財団事務局（群馬県庁15階：027-220-4431）にお問い合わせください。

■寄付につきましては、財団事務局（群馬県庁15階：027-220-4431）にご来訪いただくか、財団に御連絡の上、下記口座にお振込をお願いいたします。

福島県	東邦銀行県庁支店	普通	1078095	新潟県	第四銀行県庁支店	普通	1182791
	福島銀行本店営業部	普通	0590088		北越銀行県庁支店	普通	0199366
	大東銀行福島支店	普通	1287138		大光銀行新潟支店	普通	0837334
群馬県	群馬銀行県庁支店	普通	0515428				
	東和銀行本店営業部	普通	0975531				

特別協賛寄付者のご紹介

※寄付日順、敬称略

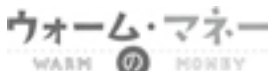
SAVE ON

2015年11月24日寄付



アサヒビール株式会社

2015年9月30日寄付



福島銀行

2015年4月27日寄付

明日をもっとおいしく



2015年3月31日寄付



2015年2月6日寄付

株式会社セーブオン 平成27年5月19日～6月30日および9月1日～13日の間、群馬、新潟、福島県内のセーブオン全店舗において、尾瀬環境保全募金を実施していただき、その募金額をご寄付いただきました。(通算寄付総額 6,751,550円)

寄付者からのメッセージ：(株)セーブオンでは、「尾瀬国立公園」が位置する群馬県・新潟県・福島県の店頭にて募金を実施し、多くのお客様に寄付をお寄せいただきました。ご協力頂いたすべてのお客様に深く感謝いたします。今後も、尾瀬の貴重な自然環境を後世まで末永く守り続けるための活動を応援してまいります。

アサヒビール株式会社群馬支社 れまで継続してご支援をいただいていた「うまい！を明日へ！」プロジェクトによるご寄付は平成26年度で終了となりましたが、今後も当財団への支援を続けて行きたいというアサヒビール群馬支社様のご厚意により、今年度は100万円のご寄付をいただきました。(通算寄付総額 28,957,751円)
寄付者からのメッセージ：アサヒビール(株)群馬支社では、地域との共生や地域貢献を目標に掲げ、2009年春から、全国活動の一環として群馬県内での売上の一部を尾瀬保護財団様へ寄付させていただいてまいりました。今後は群馬支社独自の取り組みとしての寄付継続を含め、県民の皆様とともに環境保全を進めていきたいと考えています。群馬県の子供たちの未来のために、お役に立てただけなら幸いです。

株式会社福島銀行 平成24年11月に発売された「ふくぎんエコ定期『みんなの尾瀬』」の平成27年3月末現在残高の0.01%に相当する、1,024万円余のご寄付をいただきました。(通算寄付総額 26,784,598円)

寄付者からのメッセージ：福島銀行は、中期経営計画「ふくぎん本気(マジ)宣言」の基本方針の中で、社会貢献の取組強化を掲げております。「ふくぎんエコ定期『みんなの尾瀬』」では、お預け入れ頂いた同預金の年度末残高の0.01%相当額を尾瀬保護財団へ寄付させて頂いており、趣旨にご賛同頂いた多数のお客様より永年ご支持を頂いております。かけがえのない尾瀬の自然を守るため、福島銀行はお客様と共に、これからも積極的に保護活動に取組んで参ります。

株式会社 明治 (株)明治様の群馬工場で使用される水の水源でもある、尾瀬の自然環境を後世まで守り、次代に繋げていくことで、社会そして子どもたちの未来に役立てていただきたいとの想いで、30万円のご寄付をいただきました。今回を含めて今後3年間に渡りご寄付をいただくこととなっています。(通算寄付総額 450,000円)
寄付者からのメッセージ：(株)明治は、自らの事業が豊かな自然の恵みの上に成り立っていることを認識し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。その一環として、尾瀬の貴重な自然環境が守られるための保全活動の一助になる事を期待し、寄付させていただきました。今回の寄付金が有効に活用され、尾瀬の美しい自然環境が未来へ引き継がれていく事を願い、支援を継続してまいります。

公益財団法人コメリ緑育成財団 コメリ緑育成財団様より50万円のご寄付をいただきました。コメリ緑育成財団様からのご寄付は、前身のコメリ緑資金の会様からのご寄付と合わせて、今回で6回目のご寄付になります。来年度もご寄付をいただくこととなっています。(通算寄付総額 3,000,000円)

寄付者からのメッセージ：当財団は、(株)コメリの利益の1%還元事業として1990年に設立した「コメリ緑資金」による緑豊かなふるさとづくりへの助成事業を引き継ぎ、2012年に公益財団として新たにスタートしました。私たちの住むふるさとが花や緑にあふれ平和で豊かであってほしいと願い、豊かな自然環境づくりや園芸農業分野における技術開発などへの助成を行っています。未来の子どものために、尾瀬の美しい自然と豊かな生態系がいつまでも引き継がれていくことを願っています。

尾瀬紀行

尾瀬紀行（信託ファンド）で収受した信託報酬の一部として総額525万円余りをご寄付いただきました。平成19年より今回が9回目のご寄付となります。（通算寄付総額 55,840,647円）



2015年11月9日寄付

第四証券株式会社 今年度は6万円余りをご寄付いただきました。（通算寄付総額 1,673,975円）

寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けるために今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。第四証券は第四銀行グループとして、これからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。



2015年10月26日寄付

DIAMアセットマネジメント株式会社 今年度は262万円余りをご寄付いただきました。

寄付者からのメッセージ：尾瀬の美しく貴重な自然を後世に受け継ぐために今回の寄付金が有効に活用され、環境保全の一助となることを期待しております。DIAMはこれからも金融の仕組みを通じて、社会に貢献する資産運用会社を目指します。



2015年10月21日寄付

株式会社第四銀行 今年度は41万円余りをご寄付いただきました。（通算寄付総額 5,893,897円）

寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けるため、今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。第四銀行はこれからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。



2015年6月4日寄付

株式会社東邦銀行 今年度は82万円余りをご寄付いただきました。（通算寄付総額 9,802,859円）

寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けることを目的として、当ファンドの販売・運用を通じて地域社会の発展に貢献するとともに、広く尾瀬の自然を愛する皆様と共に力を尽くしていく所存であります。今後とも積極的にCSR（企業の社会的責任）を重視して取組んで参ります。



2015年6月3日寄付

株式会社群馬銀行 今年度は132万円余りをご寄付いただきました。（財団設立当初からの寄付を含め、通算寄付総額 28,701,952円）

寄付者からのメッセージ：信託報酬の一部が尾瀬保護財団への寄付となる仕組みの投資信託を取扱っており、多くのお客さまの善意の集大成を寄付させて頂きました。趣旨にご賛同頂き投資信託をご購入頂いた全てのお客さまに深く感謝いたします。

協賛寄付者のご紹介

※寄付日順、敬称略

株式会社とりせん

2016年2月15日寄付

当財団の自然保護活動に活用してもらいたいとの趣旨で、10万円のご寄付をいただきました（3年にわたるご寄付の3年目）。株式会社とりせん様からは、平成21年に株式会社とりせん創立60周年を記念して、環境保全に寄与するという目的で社員の皆様が募金活動を実施し、その収益をご寄付いただいております。同社からのご寄付は通算で4回目となりました。（通算寄付総額 1,358,391円）

水上高原リゾート株式会社

2015年9月8日寄付

水上より坤六峠を越えて尾瀬に入るツアーを同社が経営されているホテル（水上高原ホテル200）で実施されており、その収益の一部として30万円のご寄付をいただきました。同社からのご寄付は、今回で4回目となります。（通算寄付総額 1,140,000円）

株式会社二チネン

2015年7月17日寄付

株式会社二チネン様が片品村の尾瀬工場（平成19年4月に設立）で生産し、販売するミネラルウォーター「尾瀬の湧き水」の収益の一部を、尾瀬の自然環境保全のために役立てて欲しいと、ご寄付をいただきました。平成19年度から毎年ご寄付をいただき、今回で9回目となります。

株式会社読売旅行

2015年6月15日寄付

当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同していただき、10万円のご寄付をいただきました。昨年度から3年間に渡りご寄付をいただくこととなっています。（通算寄付総額 200,000円）

一般財団法人 群馬県警察厚生会

2015年6月11日寄付

当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同していただき、尾瀬の美しい自然が後世の人々に引き継がれるよう活動に役立てて欲しいと、ご寄付をいただきました。平成23年度から毎年ご寄付をいただき、今回で5回目となります。（通算寄付総額 500,000円）

共和工業株式会社

2015年4月28日寄付

当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同していただき、尾瀬の保全に役立てて欲しいと、ご寄付をいただきました。同社からのご寄付は、今回で7回目となります。（通算寄付総額 1,300,000円）

株式会社フレッセイ

2014年9月30日寄付

フレッセイとキリンビバレッジでエコ基金を創設し、フレッセイの各店舗で販売されたキリンビバレッジの対象商品の売り上げ1本につき0.5円（両社で0.25円ずつ負担）をエコ基金に積み立て、その積立金を尾瀬の自然環境保護のため、31万円余りをご寄付いただきました。エコ基金からの寄付は、今回で5回目となります。（通算寄付総額 1,952,683円）

キリンビバレッジ株式会社

2014年9月30日寄付

フレッセイとキリンビバレッジでエコ基金を創設し、フレッセイの各店舗で販売されたキリンビバレッジの対象商品の売り上げ1本につき0.5円（両社で0.25円ずつ負担）をエコ基金に積み立て、その積立金を尾瀬の自然環境保護のため、31万円余りをご寄付いただきました。エコ基金からの寄付は、今回で5回目となります。（通算寄付総額 1,745,946円）

群馬トヨタ自動車株式会社

2014年8月4日寄付

平成25年4月から平成26年3月までの間、群馬トヨタ自動車株式会社様にて自動車保険への加入者が、「レンタカー費用補償特約」を付帯することで、1契約につき50円が群馬県の自然保護活動への支援に充てられることとなっており、当財団へ寄付をいただきました。今回で3回目となります。（通算寄付総額 447,850円）

株式会社コシダカホールディングス

2014年3月31日寄付

当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同していただき、30万円のご寄付をいただきました。（通算寄付総額 300,000円）

エース株式会社

2014年2月5日寄付

エース株式会社様の尾瀬関連商品の売上の一部（10万円）をCSRの一環として当財団にご寄付いただきました。同社からのご寄付は今回が4回目、今回を含めて今後新たに3年間に渡りご寄付をいただくこととなっています。（通算寄付総額 1,000,000円）



ミズバショウ：雪に守られて

ミズバショウを含めサトイモ科の植物は熱帯を起原としている。同じ科のサトイモやコンニャクの種芋は、秋に畑から掘り出され、納屋でワラなどをかけられて、寒さに害されないよう守られている。

ミズバショウも同様に、雪という布団をかぶって冬を過ごす。雪の上は零下二桁の寒さでも、雪の下は地熱に暖められ0度よりは下がらず、ぬくぬくと春を待っている。だが雪のない太平洋側には、分布しない。芽が寒中の気温にさらされて枯れ、子孫が残せないからだ。

(フラワーエコロジスト 田中 肇)



イベント情報 ◆◆◆

第20回NHK「わたしの尾瀬」写真展

【渋谷展】

- 開催期間 平成28年4月5日(火)～4月17日(日)
午前10時～午後6時
(最終日は午後4時半まで)
- 会場 NHKみんなの広場 ふれあいホール
3Fギャラリー
(東京都渋谷区神南2-2-1)
(TEL: 03-3485-8034)

【見附展】

- 開催期間 平成28年4月21日(木)～4月27日(水)
午前9時～午後8時
- 会場 ネーブルみつけ 多目的広場
(新潟県見附市学校町1-16-15)
(TEL: 0258-62-7801)

※予定は変更になる場合があります

『友の会』コーナー

「友の会」は豊かな尾瀬の自然を守る財団の活動を支援して下さる方々の集まりです。

※加入・更新時期が年4回(5月・8月・11月・2月)になりました

8月1日からの加入・更新をご希望の方は6月30日までに会費の納入をお願いします。

【年会費】

個人	個人会員	1口 2,000円
	家族会員 (個人会員と同居の家族)	1口 1,500円
	ユース会員 (3/31現在、満22歳以下)	1口 1,500円
賛助	賛助会員 (団体・企業等)	1口 10,000円
	特別賛助会員 (団体・企業等)	1口 100,000円

【特典について】

- ※友の会に加入された方には、以下の特典を提供させていただきます。
- ・友の会会員バッジ進呈、各種資料送付(初回加入時のみ)
- ・財団機関誌：配付(平成28年度は4回発行予定)
- ・宿泊割引：尾瀬戸倉、檜枝岐村周辺宿泊割引
(休日、祝祭日前等の除外日があります。)
- ・尾瀬周辺施設利用料金割引：対象施設等の詳細は財団ホームページでご確認ください。
<https://www.oze-fnd.or.jp>

※特別賛助会員枠を新設しました

●●● 編集後記 ●●●

暖冬とはいえ、冬は寒くて苦手です。3月になり、なまあったかい風が吹くと、気持ちが息を吹き返すような感じがします。尾瀬の動物たちはみんな寒いのが好きなのでしょうか。現在、財団職員が冬期調査のため尾瀬に入っておりますが、今年の積雪量は例年に比べかなり少ないようです。まもなく、2016年の尾瀬シーズンが始まります。尾瀬にとって、何度目の春でしょうか。誰を待つ 湿原も寝て 春の宵(長谷川)



oze mobile
携帯サイト

緊急情報

お知らせ

ライブ映像

など

情報配信中

尾瀬の質問も
受け付けています

ツイッター

尾瀬情報
配信中

